

平成 20 年 11 月 23 日

「NPO 法人西日本建設技術ネット」がめざす継続研鑽(CPD)

NPO 法人西日本建設技術ネット
代 表 理 事 齋藤 雄三
CPD 担当副代表理事 小西 徹

1 . 技術者の継続研鑽 (C P D) と「NPO 法人 西日本建設技術ネット」が目指す役割

現在と将来の社会と人々のために、技術に関わるニーズとシーズを適確に理解し、望ましい役割を果たすことは技術者の重要な使命です。そのために、建設に関わる技術者としても所属組織や立場にかかわらず自分の専門的な能力を高めて社会に貢献することは、あるべき姿と言えます。さらに建設技術者の社会的信頼を高めるとともに、現在および将来を担う優秀な技術者を育成するため「人材育成」の役割は、「NPO 法人西日本建設技術ネット」が積極的に取り組むべき課題と認識しています。

平成 12 年に改正された技術士法では、技術士資格取得後において、最新の技術や知識を継続的に習得し、社会環境の変化へ対応して自己の能力の維持・向上を目指す「継続研鑽(CPD)」の実施とともに、高い職業倫理観の涵養に努め「公益を確保」することが責務に加えられています。また技術士資格取得を目指す修習技術者にもステップアップの機会を提供しなければなりません。

日本技術士会を含む多くの学協会などが関係資格の有無にかかわらず、この時期から継続研鑽(教育)の制度に力を入れ始めています。しかし現状には解決すべき問題もあります。

「NPO 法人西日本建設技術ネット」では、以下の C P D の現状を踏まえて社会のニーズを理解し、建設系技術者へ建設関連の各専門分野に共通のテーマである「**防災・安全・品質・コスト・性能・メンテナンス・環境・資源・情報・広報・マネジメント**など」を研鑽する場を提供して、実務における複雑な問題の改善・解決に役立てることを目指します。

2 . C P D 登録制度をもつ建設系学協会での C P D 行事の問題

現在社会的要請に基づいて、関連する学協会はさまざまな継続研鑽にかかわる講習会や、講演会など C P D の目的に合致する行事を開催しています。

しかしながら、各技術者が保有する資格やそれぞれのレベルから見て必要とするメニューやテーマ、さらに開催時期、時間、場所や費用など条件の選択肢はまだ満足できる広がりにはなく、その他にも改善の余地が多く残っています。

そのためか、技術士においてさえ(社)日本技術士会会員のうち、C P D 登録会員は全部門で 900 名(2008 年 7 月の時点)に過ぎない状況です。

C P D の実施および登録を、制度としている建設系の学協会・団体等は以下のとおりです。
日本技術士会 土木学会 地盤工学会 全国土木施工管理技士連合会 建設コンサルタント協会
日本コンクリート工学協会 日本環境アセスメント協会 日本造園学会 日本都市計画学会

農業農村工学会 土質・地質技術者生涯学習協議会 日本建築学会 空気調和・衛生工学会
(以上建設系CPD協議会 <http://www.cpd-ccesa.org/> メンバー14団体加盟 順不同)

この他に、日本測量士会(測量系CPD協議会 <https://www.jsurvey-cpd.jp/> 14団体加盟)
日本建築士会連合会 建築設備士会 等に制度があります。

これら建設系の諸団体は「建設系CPD協議会」等の協議会を結成して継続教育制度を利用される方々へのCPDの実施情報提供と相互認証による記録の登録など、利便性向上をめざしていますが、まだ十分なレベルに達していません。

各学協会ではそれぞれ独自にCPDの区分、基準や課題項目、形態などを定めています。いずれの学協会も複数の課題と形態などをバランスよく実施し、履修時期も偏ることなく計画的に実施することを求めており、1年間さらに3年から5年間の目標合計単位(時間)を定めています。

しかし前述のとおり、各団体が実施あるいは認定する催しなどが年間を通じて十分選択できるだけ開催されておらず、さらに福岡市を含む地方域では開催頻度やメニューがまだまだ少ない状況で、地方を活動あるいは生活拠点にする人々には受講機会が十分あるとはいえません。

3. 今後のCPDのめざす方向

技術者がそれぞれ自己の専門性を高めるため、専門分野における最新の技術情報を提供する役割を、しくみなどを改善しつつ上記の関係学協会等が果たしていくと考えられます。

それに加えて建設各分野の横断的、共通的な素養を身につけることも、社会のニーズを理解し複雑な問題を改善・解決するためにますます重要になってきています。

「NPO 法人西日本建設技術ネット」では、建設技術分野に関わる「**防災・安全・品質・コスト・性能・メンテナンス・環境・資源・情報・広報、マネジメントなど**」建設系技術士(者)や修習技術者に必須で共通の情報を、各分野の専門家(実務技術者や研究者)によってできるだけ平易に解説し、問題解決などの事例を紹介しつつ、**質疑・応答やディスカッション**によって、**会員および参加者の理解と交流を深めて、実務での問題解決に役立てることをめざして行きたいと考えています。**

4. 「NPO 法人 西日本建設技術ネット」が開催をめざす建設技術セミナー実施計画

建設技術セミナー計画(案)に沿って、以下のとおり開催をめざします。

隔月間隔の開催で1日あたり2~4時間程度、年間合計約12~15時間を目標にします。

テーマは建設部門の上記共通課題をバランスよく選択していきます。

CPDの受講証明書を発行します。CPDの内容に関する認定証明は土木学会に申請します。

参加者の希望があれば他の団体にも認定を申請します。

会場は公的施設などの利用により、また講師の協力により会場費などのコストを削減して、できるだけ安価で受講できるよう努めます。

「NPO 法人西日本建設技術ネット」のホームページを開設して広報するとともに、会員だけでなく建設系各団体や組織に広く案内を配布してお知らせします。

セミナー受講の感想と開催テーマの希望などを調査するアンケートの記載を受講者に毎回お願いし、評価と次回へのフィードバックを行います。

以上

NPO 西日本建設技術ネットがめざす継続研鑽(CPD)

技術者の「継続研鑽」(CPD)の目的

最新の技術や知識を継続的に習得し、自己の能力の維持・向上して社会に貢献する
高い職業倫理観の涵養に努め、判断力を向上して公益を確保する
社会環境変化への対応と、技術者の社会的信頼を高める
技術士資格取得を目指す修習技術者にステップアップの機会を提供する



NPO 法人 西日本建設技術ネット」が目指すCPD

「防災・安全・品質・コスト・性能・メンテナンス・環境・資源・情報・広報・
マネジメントなど」 建設技術セミナー（講演と現場見学会）
建設系技術者へ建設関連の各専門分野に共通のテーマでCPDの機会を提供
質疑・応答やディスカッションによって、会員および参加者の理解と交流を深めて、実務で
の問題解決に役立てることをめざす



CPD 建設技術セミナー開催計画

年間合計 約12～15時間開催（隔月、1日あたり2～4時間程度）
建設部門各専門分野の上記共通課題から順次選択
CPD受講証明書を発行 CPD認定証明は（社）土木学会に申請
（参加者の希望があれば他の認定団体にも申請）
できるだけ安価で提供（会場は公的施設などを利用し会場費などのコスト削減）
NPOのホームページで広報
会員以外にも建設系各団体や組織に広く案内を配布してお知らせ
参加者へアンケートを毎回お願いし、評価と次回へのフィードバック